

Monthly

a-con

まんすりー・えーこん



2009年12月号

ご挨拶にかえて

～monthly a-con、2年目の挑戦～

monthly a-conリニューアル特大号、お手に取っていただきありがとうございます。

monthly a-conは、a-conの活動の一環として、NPO/NGOに関わるさまざまな情報を発信していくプロジェクトです。

この一年、monthly a-conに関してもさまざまなトライアルを行ってきました。

本号は、その集大成であり、新しい第一歩だと考えています。

情報が溢れているこの時代だからこそ、埋もれている素晴らしい情報を、a-conなりの視点で掘り起こし、発信していきたい……

そんな思いから、この企画はスタートしました。

monthly a-con【マガジン版】は、世の中のNPO/NGOの活躍する「今」を切り取り、旬な情報をお伝えしていく情報誌を目指します。

そして同時に、monthly a-conは、情報を通じて、NPOとNPOを、NPOと人を、そして人と人とが会おう場になりたいと考えています。

紙面を通じて、あなたに何かひとつでも新しい気付きがあれば、そこにはまたひとつ、新しい可能性が生まれているからです。

今はまだ小さな芽ですが、monthly a-conがNPOの情報発信拠点になる、そんな果てない夢に向かって、一步一步、歩き始めたいと思います。

出会いが人を強くする。

monthly a-conを通じて、また新しい縁が生まれていくことを信じて。

大特集

エコプロダクツ2009

NPOコーナー徹底レポート！！ P1

小特集

生きテク書籍化・ウェブリニューアルプロジェクト P9

連載

a-con NEWS HEADLINE P11

海外NPOレポート P12

次号予告 P12

a-conとは・・・

正式名称は

“特定非営利活動法人NPOコミュニケーション支援機構”です。
action unit for communicative NPO、略してa-con(えーこん)。

「NPOの活動を、どう世の中に伝えていったらいいか」

ということを、そのNPOの方たちと一緒に、

同じくらい真剣に考えて、

「コミュニケーション」という切り口でお手伝いするユニットです。

日本最大級の環境展示会 エコプロダクツ2009



NPOコーナー徹底

2009年12月12日、monthly a-con 編集部では、日本最大の環境イベントである「エコプロダクツ2009」取材のために東京ビッグサイトへ向かいました。

多数の企業や各種団体が出展している「エコプロダクツ2009」でNPOはどのような展示をしていたのでしょうか。

今回はイベントの様子を取材メンバーそれぞれの視点を交えながらお届けします。





実レポート！！

エコプロダクツとは・・・

期間：2009年12月10日(木)～12日(土)
10:00～18:00（12日は17:00まで）

場所：東京ビッグサイト

環境製品を当たり前のように使う時代を目指した、企業をはじめとする、行政、自治体、NPO、学生そして市民の力総勢約700の出展者が集結した展示会です。

消費財や産業資材から、エネルギー、金融、各種サービスなど、あらゆる分野のエコプロダクツやサービスが対象となり、新しい環境技術・サービス、企業間連携、地域連携など、問題解決につながる新しいビジネスモデルが展示されているのが特徴的。

来場者も関東地域の生徒を学校の授業で2万人程度動員し、親子や家族で低炭素ライフスタイルの近未来を楽しく実感できる内容となっています。

注目のNPOブース PICK UP

今年で11回を数えるエコプロダクツ展。その最大の特徴は、企業だけでなく、大学やNPOのブースなどが一堂に会しているということです。これだけ多種多様なブースが同じフロア並ぶイベントは、エコプロダクツをおいてほかにありません。

全721の出展者中、NPOは約110団体。割合としては決して大きくはありませんが、様々な団体のブースが所狭しと並び、多くの来場者で賑わっていました。

そのなかでも、特に活気の見られたブースの様子を編集部が注目したポイントとともにご紹介します。

巨大ケータイが目印の「国際青年環境NGO」



A SEED JAPAN



【概要】

1991年設立の「国際青年環境NGO」。今回のブースでは、グリーン電力証書を500円単位で購入できるようにした「ケータイグリーン電力証書」と、マイバンクをエコ視点で選ぶ「エコ貯金プロジェクト」を紹介していました。

【ポイント】

最大の注目点は、スタッフお手製の「巨大ケータイ」。「エコ貯金」は現在の貯金総額を表示するなど、全体的に視覚に訴える造りとなっていました。



循環農業が、ブースに突如出現！

ホールアース研究所



【概要】

1982年に活動を開始した循環型農業の草分け的存在。循環型農業の体験をする自然学校など環境教育のプログラムを開発・実施している団体です。



【ポイント】

ブース内に実際の堆肥や竹が展示されていて、循環型農業の仕組みが一目で分かるようになっていました。また、全ブース共通の看板にも、子どもたちの手書きイラストが書き加えられていて、ここにもオリジナリティが感じられました。

ブースに人を引き寄せるボランティアの力

ジャパン・フォー・サステナビリティ



【概要】

「持続可能性」に関する日本の取り組みを英語／日本語の記事にして、HPやニュースレターに掲載して世界に発信している団体です。主にWEB上でのやりとりという活動のしやすさから、約450人のボランティアが参加しているのが大きな特徴です。



【ポイント】

ボランティア一人一人が、通りがかった来場者に対して積極的に声かけをしていたため、多くの人がブースの前で足を止めていました。また、プロジェクトで実際のウェブサイトを見せるなど、活動特性に合ったツールを活用して説明をしていました。

渋谷の無料レンタル傘「シブカサ」を運営



【概要】

ボランティア一人一人が、通りがかった来場者に対して積極的に声かけをしていたため、多くの人がブースの前で足を止めていました。また、プロジェクトで実際のウェブサイトを見せるなど、活動特性に合ったツールを活用して説明をしていました。

【ポイント】

前面に展示された「シブカサ」が、カラフルなデザインで、興味を惹きました。また、団体の中心メンバーが、ブースに興味を持った人々に積極的に声かけを行っているのが印象的でした。

日本地図で全国の活動を網羅できる



【概要】

全国地球温暖化防止活動推進センターなどが環境省からの委託で実施している、各地域の特徴的なエコ活動を表彰する事業。最近では、「事業仕分け」の対象となったことでも注目されています。

【ポイント】

各県のエコ活動を日本地図を模した大きな什器に並べることで、インパクトある展示となっていました。

間伐材を使った統一感のあるデザイン



【概要】

市民による日本最大級の地球フェスティバル。2010年は4月18日、19日に代々木公園を中心に開催予定です。

【ポイント】

間伐材が敷き詰められ、色味のない他ブースとは違う印象でした。また、写真が整然と並べられており、全体的に統一感もあるブースとなっていました。

ずらっと並んだ色とりどりの雑穀8種



エーピーエスディ



【概要】

穀のファーマーとオーナーをつなぐ『ひとつぼ雑穀プロジェクト』を運営している団体です。

生産現場を正しく理解する仕組みを作ることで生産から消費に関わる人々の交流の場を生み出しています。

【ポイント】

脱穀機や雑穀がきれいに並んでいて、全体的にまとまりのあるブースでした。また、「ひとつぼオーナー」がブースのスタッフとして参加していたため、プロジェクトの魅力やおすすめ情報など、生の体験談を聞くことができました。

エコプロダクツ取材雑記:NPOブースに必要な3つのポイント

今回の取材で感じたのは、「エコプロダクツはNPOにとって“難しい”イベントだ」ということです。企業ブースと比べると、その展示手法はどうしても見劣りしてしまいます。来場者は小学生からビジネスマンまで幅広く、どこに照準を定めるべきなのかも悩みどころです。

そんな“難しい”状況のなか、NPOブースは、来場者で賑わうブースと、人通りの少ない寂しいブースの2つにはっきりと分かれていました。「なぜこんなにはっきり差が出てしまうのか」そんな疑問を持ちながら取材を重ねる中で、来場者の多いブースにはある共通点を見出すことができました。

それは、

1. 多くの人の興味をひくアイテムを置き、「アイキャッチ」とする
2. アイキャッチに興味を持って立ち止まった人に積極的に声かけ
3. アイキャッチとは別の説明用展示、資料などを用いて簡潔に説明する

という3点です。

1の「興味喚起」から3の「内容訴求」まで、一連の流れをしっかりと設計していたブースには人が集まっていたということでしょう。来場者が多様なエコプロダクツにおいて、アイキャッチの重要性は言うまでもありません。また、出展者の側からの積極的に声かけなくして、次の段階に進むことはできません。そして次の段階、「内容訴求」においては、説明相手のニーズを素早くみ取り、ニーズによって説明のポイントを柔軟に変更するといった高度な「説明力」も必要とされます。

これら3つのポイントを全て押さえるのはなかなか難しいことかもしれませんが、しかし、この3点を確実に押さえたブースづくりをすることで、NPOが「エコプロダクツ」という稀有な場を有効活用できるようになるのではないのでしょうか。

取材班(P)

エコプロダクツ2009

取材ノート

12:00

頑張前に、まずはビッグサイト近くのTFTで腹ごしらえ



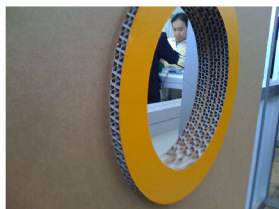
13:00

いざビッグサイトへ！
駅から会場まで、人・人・人……



13:10

さすが「エコプロダクツ」！
あらゆる展示物がダンボールで
できています。



14:00

「森林からはじまるエコライフ展」
に出展している「JUON
NETWORK」さんにご挨拶！



16:00

NPOコーナーで面白いもの発見！
NPO法人GSAのスポーツ用品ア
ート。使用済みバットがトカゲに!?



16:50

最後に企業ブースもちょっとだけ
取材。面白いものがいっぱいの
刺激的な一日でした！



出展者からみた もうひとつのエコプロダクツ



シゴトに本気な学生がいっぱい！ 「環境」就職・進路相談会 ブース

全国青年環境連盟、通称エコリーグ。

普段から環境問題に関心のある、青年を対象としたイベントを定期的に行っている彼らのブース、“「環境」就職・進路相談会”。

環境系のシゴトに興味のある学生が、環境関連のシゴトをしている社会人と直接話すことのできる場を提供する、というものでした。

開場するとスーツ姿の学生が、真剣な顔をしておしよせました。その足は1日中やむことはなく、前年比1.7倍という大盛況！

その要因として、エコプロダクツ公認のイベントとして実施できたことや、入口の目につきやすいスペースを確保できたこともありますが、何よりニーズを掴んでいたのかな、と感じました。



たくさんのNPOが気軽に参加できる 「森林からはじまるエコライフ展」のブース

私の勤める「(特)共存の森ネットワーク」は「森林からはじまるエコライフ展」の一角に出展していました。

ここに集まったのは「緑の募金」を主催する(社)国土緑化推進機構(緑推)に関係するNPOです。ブース全体は緑推が用意した木の衝立や机に展示を行い、自然と統一感が出る仕組みになっていました。

あまり準備に時間を割けない団体にとって、大きな枠組の中で展示をさせてもらえるのはとても有難いこと。エコプロの会場に来て、様々な方と話をすると、お客さんを迎えられるブースを出展しているかないかで、NPOのアピール度はだいぶ違うみたいです。



生きテク書籍化・ウェブリニューアルプ

今回はa-con活動番外編として、「生きテク」HPリニューアルと12月4日にPHPから発売となった書籍「生きテク」編集作業のご報告です。

多くの皆さんにとって「生きテク」とは何ぞや？ という状態だと思いますので、まずは説明を。

日本は、98年からずっと、3万人以上の人たちが自殺をしています。諸外国では1万人程度といわれていますから、約3倍です。その状態はここ10年間全く改善されないまま、今に至っています。この3万人という数字をウェブやメディアを使用することで短期間のうちに交通事故死者数である7千人レベルまで減らそうという試みが「生きテク」プロジェクトです。

この活動は、NPOではなく、株式会社posi-mediaの「生きテク」プロジェクトとして運営されているため、正確にはa-conとは関係ありません。しかし今回は、活動が無償であり、今後もその資金が自殺対策に使用されることから、特例としてお手伝いをさせてもらいました。また、そのような理由からa-con側でお手伝いさせてもらったのは、緒方太郎1名で、あとは個人的お友達と一緒に行動させてもらいました。

この「生きテク」は、悩みと解決方法をそれぞれ、カテゴリーに分けて分類しているのが特徴です。例えば、学校でいじめにあっていたけれど、カーネギーの「道は開ける」を読んだ結果、いじめが大したことに思えなくなり、相手にしなくなったら、いじめられなくなった。なんて事例の場合、これは、「いじめ」という悩みカテゴリーを、本に出会うという「文芸系」で解決したと分類します。このように分類することで、自分に近い現状や、望む解決法を探し出すことが出来るというわけです。

現在の分類では、自殺の原因を「恋愛」「過労」「病気」「いじめ」「死別」「暴力」「借金」「その他」の8つの項目にカテゴリー分けし、その事例ごとに、解決カテゴリーとして「文芸系」「身体系」「場所系」「アカデミック系」「コミュニケーション・出会い系」「働く系」「時間系」「法律・制度系」を当てはめていくという手法がとられています。

プロジェクト

この特色を生かした形でHPや本を作っていきたいということだったので、それぞれ工夫をしてみました。

HPは、従来は悩みカテゴリーをクリック→その中から手作業で解決法を探し出すという不親切な構造でした。そこで、今回は解決でもカテゴリー選択可能にしたほか、今までなかったランキングや最新コメントをトップページに持ってくることで、閲覧者が楽しみながら自殺を思いとどまれるような形にしてみました（下図）。

また、書籍の方は、HPをあまり見していない層である10代後半と50代以上をターゲットにしてほしいという要望から、とにかく見易さを優先しました。具体的には、1エピソードを基本見開き1ページにすることで、読者に手軽さを感じてもらえるようにしたほか、悩みカテゴリーごとにインデックスをつけることで、自分に近い悩みから読み出すことが出来る工夫をしてみました。

書籍のあとがきには、a-conの名前も入れられてもらったので、是非皆さん、書店でお手にとって確認してみてください。



<http://ikiteku.net/>

～NPO・NGOのニュースやイベント情報をちよっぴりつまみぐい～

【NEWS】盛岡のNPO書類偽造問題 旅行代理業取り消しへ

盛岡市のNPO法人「いわてNPOセンター」が旅行業代理業登録の申請書を偽造した問題で、岩手県は4日、旅行業法などに基づく聴聞を15日に実施し、早ければ同日中に代理業登録を取り消す方針を決めた。同センターは11月4日、入居する盛岡市内のビル内に資本金2000万円で株式会社INCを設立、不動産仲介業、損害保険代理業などに加え、旅行業法に基づく旅行業務を掲げ、NPO法人での代理業登録後、会社での旅行業登録の申請も検討していた。

【NEWS】「1切れ分」寄付で途上国に食糧を NPOと菓子職人が協力

途上国の子どもたちを支援するNPO法人「ワールド・ビジョン・ジャパン」が東京と横浜のパティシエ有志と協力し「ラブケーキプロジェクト」を始めた。7人のパティシエが作ったクリスマスケーキを、1切れ分切り取った形にして各店舗で販売。購入すると1切れ分の金額をNPOに寄付したことになる。集まった寄付はアフリカなどへの食糧支援にあてられる。東京、横浜の計7店舗で実施しており、店によってケーキのデザイン、価格、予約受付期間は異なる。

詳細は<http://www.worldvision.jp/lovecake/>に掲載。

【イベント】NGO入門セミナー・就職ガイダンス～参加者募集

国際協力の分野で活動するNGOについて知りたい、関わるきっかけが欲しいという方を対象に、国際協力NGOの概要を分かりやすく解説。

【日時】2009年12月22日(火)18:30?20:30

【会場】エポ会議室(環境パートナーシップオフィス(EPO)内)

【交通】表参道駅より徒歩2分、渋谷駅より徒歩10分

【参加費】一般1,000円、JANIC会員500円(資料代含む)

【定員】40名(要予約、定員になり次第締切)

【申込方法】右記の予約申し込みフォームからhttp://www.janic.org/event/post_173.php

【主催】(特活)国際協力NGOセンター(JANIC) 担当:渡辺

【イベント】開発NGO・環境NGO 第3回連携フォーラム(ここが知りたい! 資金獲得のコツ)

資金獲得が上手なNGOは何をしているのか、どのような方針・工夫があるのか。本フォーラムでは特に、サポーター・寄付金、企業連携に焦点を当て多くのNGOの事例を元に、情報・意見交換を行いながら皆さんと一緒に、資金獲得の拡大の可能性を探りたいと考えています。

【日時】1月12日(時間は後ほど決定)

【会場】早稲田奉仕園内(奉仕園会館B1F You-Iホール)

【参加費】無料

【定員】NGO関係者約30名

【お申し込み】以下の情報を下記連絡先までお知らせ下さい。(1/5まで)

メールタイトル:連携フォーラム 資金獲得 申し込み

1:ご氏名 2:ご所属(団体名)3:部署(あれば)4:E-mail 5:電話番号

E-mail:advocacy@janic.org

【開催】国際協力NGOセンター 担当:北橋・奥村

ウェブサイト・オブ・ザ・イヤー 2009

今年で第6回目となる「ウェブサイト・オブ・ザ・イヤー 2009」賞がオンラインのマーケットリサーチ会社であるMetrixLab社(本部オランダ)によって主催されました。

投票は、一般のネット利用者がサイトの「デザイン」、「ナビゲートのしやすさ」と「内容」に基づいて行い、今年の投票数は856,651票。12月14日現在、開票中とのこと。

このコンテストの「非営利団体部門」における今年の候補者は、例えば英国のサイトでは下記15団体。さすがの超有名団体が名を連ねていますが、特にお気に入りのサイトはありますか？

rednoseday.com

ifaw.org

unicef.org.uk

redcross.org.uk

bhf.org.uk

nspcc.org.uk

savethechildren.org.uk

amnesty.org.uk

spcai.org

wwf.org.uk

greenpeace.org.uk

diabetes.org.uk

oxfam.org.uk

justgiving.com



次号予告

大特集:DMのつくり方

a-conでサポートしている「社団法人シャンティ国際ボランティア会」での事例も含めて、効果的なDMづくりについてレポートします！

小特集:a-con新任理事

12月に理事が新しくなったa-con。

「理事ってなんだろう？」ということも含めて、考えてみたいと思います。

事務局だより

2010年最初の定例会。

今回も、もちろんゼミナールと同日開催です！

定例会

日時：1月16日(土) 15:00～17:00

場所：台東区立社会教育センター

内容：各プロジェクトの最新情報が盛りだくさん。

定例会が終わったら、もちろん懇親会もありますよ！

a-conゼミナール

～「イベント」からNPOの好循環をつくるコツ！～

日時：1月16日(土) 12:30～14:30 (開場12:15)

場所：台東区立社会教育センター

対象：NPO関係者、NPOのイベントに興味のある方

定員：30名(先着順)

お問い合わせはa-con事務局(jimukyoku@a-conweb.net)まで！
どしどしご連絡くださいね。

a-con webサイト

a-conの活動や、その他いろいろな情報を発信しています。
WEBサイトへもぜひ遊びにきてください。

URL：<http://blog.a-conweb.net/>

発行元：特定非営利活動法人 NPOコミュニケーション支援機構(a-con)

WEB：<http://a-conweb.net/>

編集長(代理)：原文子 DESIGN：佐藤美弥子

編集STAFF:

緒方太郎 岸上友香 佐藤美弥子 谷本大樹 濱岡沙織

森山紗也子 涌井健策(五十音順)